

小学校外国語活動・外国語の単元目標と評価

～移行期の場合はどうすればよいか～

平成 30 年度から新しい学習指導要領の全面実施へ向けて移行期に入った。平成 30 年 4 月以降に小学校外国語活動や外国語の授業を参観する機会が数回あった。単元目標は新しい学習指導要領を先取りして、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が示されていることが圧倒的に多かった。移行期の外国語活動・外国語の単元目標は果たしてそれでいいのだろうか。以下、文部科学省から出された評価に関する資料を参照しながら検討する。

1. 「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」には以下のような記述がある。これは文部科学省が小学校の外国語活動・外国語を進めるにあたって研修などに活用することを念頭においてまとめたものである。

評価規準、評価方法など、新学習指導要領の下での学習評価については、平成 28 年 12 月の中教審答申の指摘(※)を踏まえ、今後の国における具体的な検討を受けて、追記・修正をする予定である。なお、平成 30・31 年度の移行期間における学習評価については、平成 29 年度中に通知される予定である¹。

(「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」平成 29 年 6 月 30 日)

2. 新しい学習指導要領が公示され、パブリック・コメントが求められ、その回答が公表された。もちろん、これは文部科学省の公式回答である。

意見番号	該当箇所	意見内容	回答
10	外国語	指導要録や通知表への評価の記入に関して、記入すべき欄や記入上の条件等を示していただきたい。	移行期間中における学習評価のあり方については、 <u>移行期間に追加して指導する部分を含め、現行の学習指導要領の下での評価基準に基づき、学習評価を行うこととします²。</u> また、移行期間中における外国語活動に係る指導要録の取扱いについては、次のとおりとします。 ①小学校第 3、4 学年については、総合所見及び指導上参考となる諸事項を記録する欄に、児童の

¹ これに関連して出された文書があるかどうかについては、筆者は把握していない。

² 「移行期間に追加して指導する部分を含め」とは「新教材を扱う時でも」という意味。

			<p>学習状況における顕著な事項を記入するなど、外国語活動の学習に関する所見を文章で記述すること</p> <p>②<u>小学校第5、6学年については、引き続き、現在の取扱いと同様とし、外国語活動の記録の欄に文章で記述すること</u>、なお、外国語活動については、引き続き、数値による評価は行わないこととし、<u>評定も行わないものとする。</u></p>
--	--	--	---

＜小学校学習指導要領，中学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置案に対する意見公募手続（パブリック・コメント）の結果について，平成29年7月7日＞

3. 学習指導要領の公示にともない，新教材説明会が開催された。移行期における新教材の活用についての説明がなされ，学習指導内容案が示された。その資料には，新教材を使う時でも，単元目標は，現行の外国語活動の観点で示されている。すなわち，【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】【外国語への慣れ親しみ】 【言語や文化に関する気付き】となっている。

H30年 6年生【A】※横長になっているものを縦長に改変

使用教材	単元	タイトル・題材	時数	表現(児童の発話例)	語彙(児童が使う語彙例)
新6	5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	8	I went to (my grandparents' house). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). I ate [ice cream]. It was [fun /exciting /beautiful /delicious].	grandparent, vacation, zoo, 動詞の過去形 (went, ate, saw, enjoyed, was), 自然 (beach, mountain, sea, lake, river), 動作 (hiking, camping, fishing)

HFとの関連	配当時数	<u>単元目標（現行の外国語活動の観点）</u>	主な活動 ※留意点
--------	------	--------------------------	-----------

4	<p><u>【コ】進んで、夏休みの思い出について伝え合おうとする。</u></p> <p><u>【慣】夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを表す表現に慣れ親しむ。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、例を参考に書いたりすることに慣れ親しむ。</u></p> <p><u>【気】英語の書き方の規則に気付く。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出を伝え合い、来年の夏休みを一緒に過ごしたいと思う友だちをたくさん見つける。 ・夏休みの思い出を、例を参考に書く。
---	---	---

＜新教材説明会：移行期の学習内容案（平成 29 年 9 月 21 日）＞

4. 平成 30 年度になり、文部科学省から新教材を指導する際の参考として「学習指導案例」が出された。そこでは単元目標として「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が単元目標として挙げられている。

<p>6 年－Unit 5 単元名 My Summer Vacation 夏休みの思い出</p> <p>1. 単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などを聞いたり言ったりすることができる。<u>（知識及び技能）</u> ・夏休みに行った場所や食べた物、楽しんだこと、感想などについて伝え合う。また、夏休みの思い出について簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、例を参考に語順を意識しながら書いたりする。<u>（思考力、判断力、表現力等）</u> ・他者に配慮しながら、夏休みの思い出について伝え合おうとする。<u>（学びに向かう力、人間性等）</u> <p>2. 言語材料</p> <p>＜以下省略＞</p>

＜文部科学省「学習指導案例」平成 30 年 5 月調整版＞

5. 移行期の単元目標と評価をどう設定するか

移行期の外国語の指導案の単元目標が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」となっているのを多く見かけるようになったのは、文部科学省が

ら出された「指導事例³」の影響が大きいと思われる。新学習指導要領対応外国語教材“We can!”（高学年用）作成の背景として以下のことが教材説明会（平成 29 年 9 月）の資料に記されている。

- 新学習指導要領に円滑に移行するため、来年度からの 2 年間は、全ての小学校において、「外国語科」「外国語活動」の内容のうち、中学校との接続の観点から必要最低限の内容を指導。
- これに加えて、各学校の判断により、より多くの内容を指導することも可能。
- 教科書が無償給与されるまでの 2 年間、国が新学習指導要領に対応した教材を配布する必要。

教材説明会（平成 29 年 9 月）の配布資料

新教材は新学習指導要領に対応した教材であることから、それを指導する指導案には、新しい学習指導要領の目標である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が単元目標として設定されている。そのため、新教材を使用する際には、文科省から示された指導案を参照することが多いため、現場の授業においては、単元目標として、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が単元目標として設定されることが多くなったと思われる。

しかし、パブリック・コメントの回答（平成 29 年 7 月 7 日）では、「移行期間に追加して指導する部分を含め、現行の学習指導要領の下の評価基準に基づき、学習評価を行うこととします」とあることから、移行期間に外国語活動・外国語を指導する際は、現行の評価基準に基づいて行われることになる。目標として挙げられていないものを評価することは極めて不自然である。したがって、移行期において、新教材を使って追加の内容を指導する際は、現行の目標、すなわち、【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】【外国語への慣れ親しみ】【言語や文化に関する気付き】を単元の目標とすることが適切であると筆者は考えている。前述したように、新教材説明会（平成 29 年 9 月 21 日）において配布された「学習指導内容案」では、新教材の単元であっても、現行の指導要領の下で行うことであることから、単元目標は【コ】【慣】【言】と示されている。

新教材は新しい学習指導要領の下での目標、つまり「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する目的で作成されている。現行の目標を当てはめて指導することは不適切と考えられるが、新しい目標は現行の目標を引き継ぎ、新しい目標の中に溶け込んでいる。つまり、【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】は【学びに向かう力・人間性】に、【外国語への慣れ親しみ】と【言語や文化に関する気付き】

³ 研修ガイドブックにも一部示されている。

は【知識及び技能】に溶け込んでいる⁴。したがって、新教材であっても、現行の学習指導要領の下での内容を十分に含んで作成されているのであり、新教材であっても、新教材説明会の配布資料にあるとおり、【コ】【慣】【言】という単元設定が可能となるのである。

ただし、新教材は、2020年度からの外国語活動・外国語が全面実施（35時間/70時間）になった場合を想定して作成された教材である。定着が求められている部分もあり、スキルの到達目標も現行の学習指導要領を超えるものとなっている。特に、高学年の外国語は中学年で70時間の外国語活動を実施したものとして作られている。移行期に新教材を使って授業を行う場合は、そのような前提になっていないため、児童にとっては難しすぎるものとなる。宗が述べるように、スキル面の到達目標をぐっと下げることが意識することが大切である⁵。

6. 結論

移行期の単元の設定は教材説明会（平成29年9月21日）の学習指導内容案を基本とし、単元目標は【コ】【慣】【言】で設定すべきと考える。そのことは指導と評価を一致させることにつながり、これまで文科省が出してきた「パブリック・コメントの回答」及び教材説明会の「学習指導内容案」とも矛盾しないものである。

新教材は、学習指導要領の全面実施にむけて必要最低限の内容を取り出して指導するものであると同時に、2020年度からの外国語活動・外国語が全面実施（35時間/70時間）になった場合にどのような指導を行えばよいのかについて研究、検討する教材でもあることに十分に留意する必要がある。

ただし、2020年度の全面実施を想定した「研究的な授業」の場合は、新指導要領の下での単元目標を設定し、それに合わせて評価の研究を行うことも十分にあり得ることと考える。

大城賢（琉球大学教育学部）

⁴新学習指導要領の下での【思考力、判断力、表現力等】のみが新しく目標として設定されているため、これをどのように評価するのかについては、現在も議論が続いている。

⁵ 宗誠のJESセミナー（長崎大学）での鼎談での発言（2018.6.17）